

インフラの町医者

全8回の8
をどう育てるか

第9回建設トップランナーフォーラムより

パネルディスカッションの後半では、「若者の建設産業への入職、定着、復職の促進対策」地域や学校、訓練機関、発注者との連携、「建設産業としての課題」などについて話し合った。

◇ 人材育成について砂子氏は、社員のお祝い事がある

砂子氏



◇ 自社の「最大の特徴」を披露した。これを受けて野中氏は、雑誌の特集で「先輩が後輩の面倒をよく見ている」ことが、離職者を出さない会社の特徴だったことを紹介。「この業界で人を育てるには、いわゆるベタなコミュニケーションも大事なのでは」と述べた。

砂子氏は「人材の確保や育成は、最も重要な課題の一つであることは間違いない」と強調。その上で、「利益の創出や安全管理の徹底、施工品質の確立といった、企業としての安定感

が具体的なリクルートにつながる」と話し、受発注者がベストパートナーとして協力し合うことの重要性も含め、粘り強く進めていくことが勝負だとの考えを示した。

方で、企業としてはインフラを守る仕事の意義を地元志向が強いといわれる学生や地域の人たちに理解してもらう場となる」と語った。

菅井氏は「(「富士教育訓練センター」に来た)を聞くことも多い。ぜひ一

河合氏



を担う人材をきちんと育てていくことがわれわれの使命である」と強調した。その上で「道からそれた元気が

人材育成へ新たなNWを

追い風にも謙虚さ忘れず

大沼氏



体制の確立、効率的な除雪作業など、行政と地域建設業が一体となって地元貢献していく機会はまだある」と述べた。

菊川氏



虚さをお忘れず、課題にしっかりと向き取り組み、足腰を鍛えることが大事だ」と主張。そして「人を大事にするのが建設業である。それが若い人を引きつけ、地域に貢献する建設産業の再生につながるという好循環を生むことになる」と期待した。

おわり



野中氏

野中氏は、地域の高校や大学、自治体が協力して維持管理の仕事を一緒に行うことを提案。学生にとって実際の作業に参加できることは貴重な機会となる。一



菅井氏

河合氏は、「建設部会ではこれまで、技術のネットワークをつくる方向で取り組んできたが今回を機に、人材の育成や確保の必要性を実感した」と、新たなネットワーク構築の方向性を積極的に考えていく考えを述べた。

大沼氏は「地域の町医者」が問題となっている。除雪



米田氏

「地方建設専門紙の会」(加盟19社)のうち、今回の連載を担当したのは、北海道建設新聞社、日刊岩手建設工業新聞社、秋田建設工業新聞社、建設新聞社(宮城県)、福島建設工業新聞社、新建設新聞社(長野県)、日本工業経済新聞社(東京都)、建通新聞社(東京都)、日刊建設タイムズ社(千葉県)、日刊建設工業新聞(鳥取県)、建設新聞社(長崎県)、大分建設新聞社の12社です。